

選挙を 見つめて

19あおもり

知事選①

6月2日の投開票へ向けて舌戦が繰り広げられている知事選。今回の連載で取材している6人に、本県の課題や選挙期間中に立候補者にしっかりと語ってほしいことを聞いた。

（本紙取材班）

◆ 本県の課題について、八戸学院大学2年の根本ひかるさん（19）「八戸市」は「進学や就職

で本県を離れる人が多く、若者が減って県全体の活気が失われつつある。人口減少が止まらないことが最も大きな課題と考え



根本ひかるさん（19） 八戸・八戸学院大2年

人口減少最大の課題

「と話した。板柳町のライフスタイルアドバイザー、菅原咲子さん（39）も人口減少が大きな課題とし「子

会社社長、中村健さん（65）は、本県が全国一の短命県という現状を挙げ「何とかワーストから抜け出す施策をとってほしい」

菅原さんは「県内の市町村の良いところ、悪いところを聞いてみたい。各市町村をよく見た上で県の施策を考えている人な

ら応援したいし、県民としてできることをやっていきたい」と話した。 県行政に力を入れてほしいことについて、菅原さんは「短命県返上のため、健康診断や（追加料金のかかる）脳ドックなどを受けやすくして」という。中村さんは十和田湖観光が衰退している現状を憂い「観光施策に力を入れて。地元の人もそこに行ってみたいと思えるような展望を示してほしい」と述べた。

根本さんは、知事選の投票に関し「三村候補は実績を強調し、佐原候補はそれを批判している。両者の反する主張をしっかりと聞き、投票先を決める判断材料にしたい」と語った。